

スマートシティさいたまモデルの推進

概要 「公民+学」の連携・協力のもと、デジタル技術やデータを活用し、住民等が抱える社会課題の解決や脱炭素化の推進を図るスマートシティさいたまモデルを構築し、美園地区の定住・交流・関係人口の増加に繋げる。

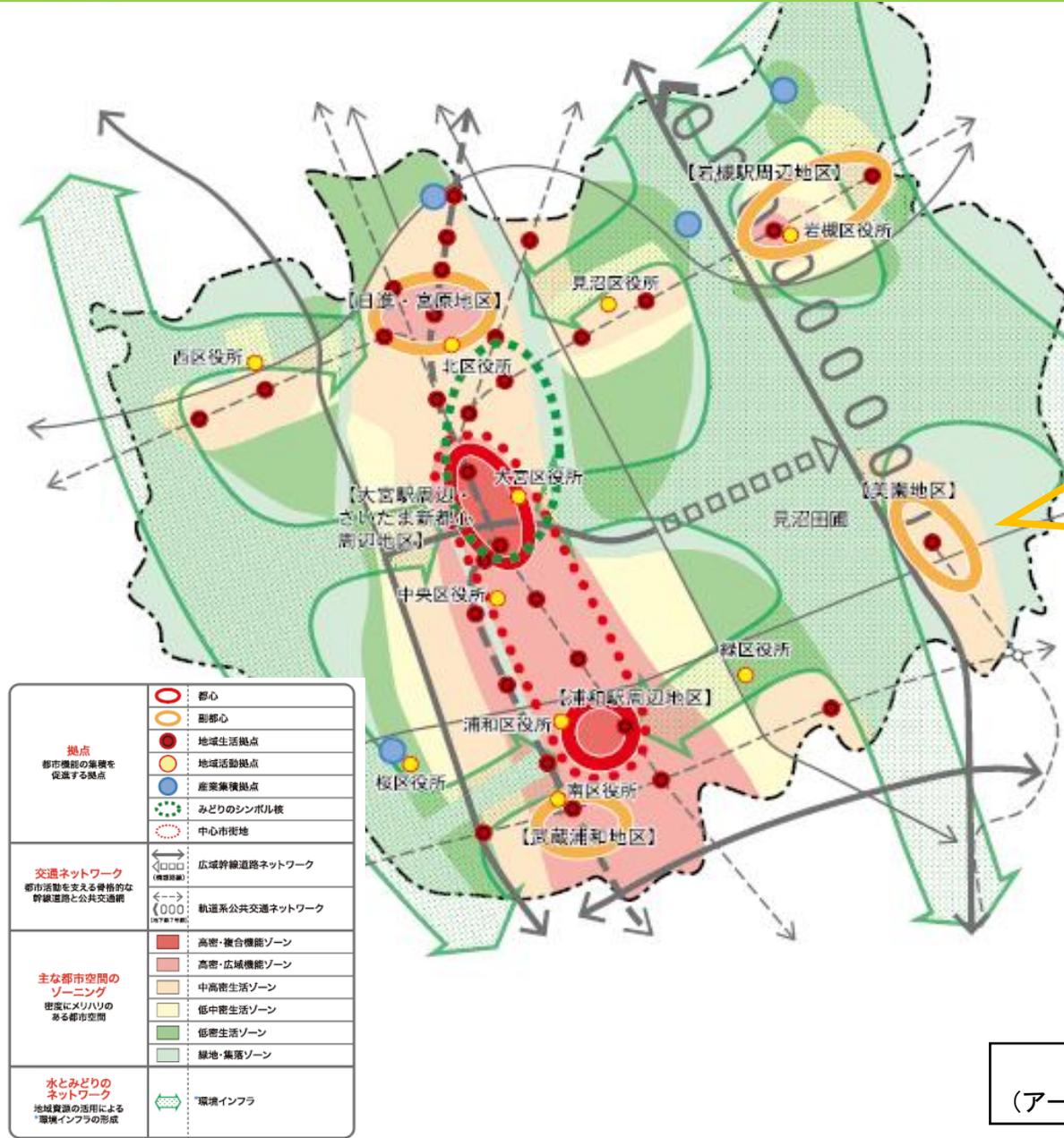
課題

- ・さいたま市の人口の将来的な減少 ・地域コミュニティの形成
- ・「超高齢社会」への突入と「生産年齢人口」の減少による経済規模の縮小への危惧
- ・持続可能な成長・発展できるまちづくりの推進

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	アーバンデザインセンターみそのを拠点としたエリアマネジメントを地域コミュニティを形成しながら推進	短期 (3年)	・美園タウンマネジメント協会によるコミュニティイベントを実施等、エリアマネジメントを展開	モビリティ、健康、エネルギー、コミュニティ、データの5分野の知見
スマート	デジタル技術等を活用した生活支援サービスの提供	短期 (3年)	・地域課題の解決、住民の生活の質の向上が見込めるデジタル技術等活用型民間サービスの公募・支援	デジタル技術等を活用し、定住人口、交流人口又は関係人口の増加、生活の質の向上等を目指す事業
レジリエント	スマートホーム・コミュニティ街区認証制度 さいたま市脱炭素先行地域事業における脱炭素街区形成	長期 (10年)	・「スマートホーム・コミュニティ」モデル街区整備の更なる横展開を図るべく市が認証し、その取組を支援することで、レジリエンス性の確保及び住民同士のコミュニティ形成に資するスマートホーム・コミュニティ街区の普及に寄与 ・脱炭素先行地域事業の一環として、新築戸建て住宅のZEH化を必須とした上で、太陽光発電設備及び蓄電池を全戸に設置し、電力の自家消費を必須とした脱炭素街区の形成を民主体で行う。	事業参画

将来都市構造図

さいたま市都市計画マスタープラン



美園地区

「埼玉スタジアム2002」などの地域資源を生かしながら、「スポーツ、健康、環境・エネルギーを軸に先進的なライフスタイルを創造する副都心地区」の形成を目指す。

拠点 都市機能の集積を促進する拠点	<ul style="list-style-type: none"> 都心 副都心 地域生活拠点 地域活動拠点 産業集積拠点 みどりのシンボル核 中心市街地
交通ネットワーク 都市活動を支える骨格的な幹線道路と公共交通網	<ul style="list-style-type: none"> 広域幹線道路ネットワーク 軌道系公共交通ネットワーク
主な都市空間のゾーニング 密度にメリハリのある都市空間	<ul style="list-style-type: none"> 高密・複合機能ゾーン 高密・広域機能ゾーン 中高密生活ゾーン 低中密生活ゾーン 低密生活ゾーン 緑地・集落ゾーン
水とみどりのネットワーク 地域資源の活用による「環境インフラ」の形成	<ul style="list-style-type: none"> 環境インフラ



美園地区 (アーバンデザインセンターみその)

浦和美園駅周辺（航空写真：2020年6月）



<https://www.city.saitama.jp/001/010/015/010/003/p045624.html>

<美園地区の特徴>

- 2001年に土地区画整理事業が認可され市街地形成が開始した“新しいまち”
- 市内でも高い人口増加率

➡ 美園地区を目指す理想都市の縮図へ

スマートホーム・コミュニティ



みその都市デザイン方針：美園地区が目指すべき都市デザインの方向性

(H29.4、みその都市デザイン協議会)

都市デザインの方針

新価値 創造都市	方針1	サッカー観戦者などの来街者をもてなすホスピタリティある環境と、日常的な賑わい・交流を創出する都市機能や活動を誘導しながら、市の副都心に相応しい都市環境を形成する。
多世代 健康都市	方針2	安心・安全で心地よい居住空間と、公共交通・歩行者・自転車を中心とした交通環境ネットワークを整えながら、健康を育み、スポーツ・レクリエーションに親しみやすい都市環境を形成する。
次世代 環境都市	方針3	見沼田園や綾瀬川水系につながるみどりの目節を形成しながら、安全・快適で落ち着いた雰囲気の良い街並みを誘導し、低炭素・循環型を持続可能な都市環境を形成する。

基本理念

都市デザイン方針図(拠点と都市軸の方針)



- 拠点**
- 都市核(浦和美園駅周辺)**
- 美園を象徴する緑豊かで品格ある空間にする
 - 副都心として多様な都市活動を支える快適・便利・賑わいのある空間をつくる
- 埼玉スタジアム2002公園**
- 健康・スポーツに取組み、緑の拠点となる公園にする
 - 世界に誇れる快適なスタジアム環境をつくる
- 綾瀬川・調節池**
- 治水機能を維持しながら、健康を育みスポーツに親しみやすい親水空間や憩いの場づくりをする
- 学校・公園**
- 緑豊かで安心安全な居住空間の核となるような環境をつくる
- 特徴的な居住エリア**
- 環境・エネルギー・自然・健康等をテーマに美園地区のモデルとなる居住エリアをつくる

- 都市軸** ↔ **都市骨格軸**
- 緑豊かで品格のある景観と快適な歩行環境・自転車走行環境を形成する
 - 都市間交通の中心となり、街の入り口を演出する
- ↔ **拠点アクセス軸**
- 拠点間を結び都市生活の中心となる緑豊かで歩行者優先環境をつくる
 - 特に都市核と埼玉スタジアムを結ぶ軸は、大勢のサポーター通行に対応し、サッカーの街に相応しい緑豊かな「スタジアム参道」を形成する
- ||||| **オープンスペース・自然環境軸**
- 緑と水の拠点を連続させ、健康を育みスポーツに親しみやすい都市環境を形成する
 - イベント開催などによる賑わい・交流の場をつくる

都市デザインの戦略

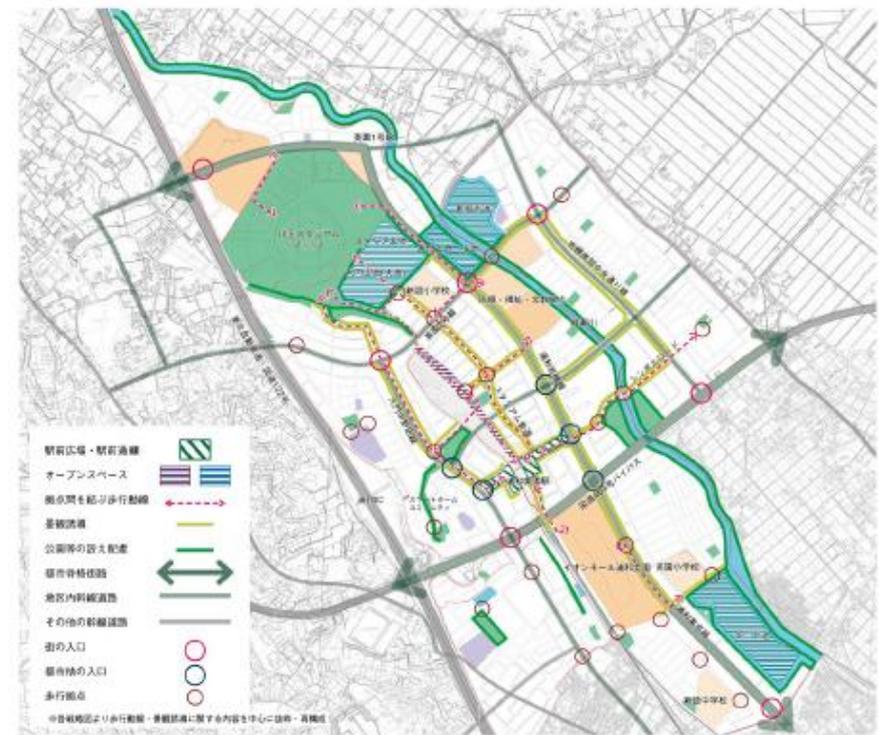
戦略の組み立てイメージ

- ① 主要な拠点・都市軸上に質の高い空間を形成する
- ② 空間上に人の活動やコミュニティの「場」を生み出す
- ③ 地区全体の「場」をネットワーク化する



戦略1	緑豊かな副都心の顔と骨格をつくる
戦略2	サッカー文化の薫る街のシンボル空間をつくる
戦略3	健康を育む緑と水の拠点を連続させる
戦略4	安心安全・快適な居住環境をネットワークする
戦略5	都市デザインをマネジメントする

都市デザイン戦略図



※各戦略より実行段階・優先順位に関する内容を中心に説明・掲載

美園地区の概要

美園地区(埼玉高速鉄道線「浦和美園駅」周辺)

- ・さいたま市の南東部の郊外、東京都心から25km圏内に位置しています。
- ・埼玉高速鉄道線「浦和美園駅」を中心に、大規模な都市開発が進むエリアです。
- ・同駅や2002FIFAワールドカップに向け開場した埼玉スタジアム2002を囲みながら、総面積約320ha 計画人口約32,000人の土地区画整理事業(区域愛称:みそのウイングシティ)を核とした新たな都市拠点づくりが進行中です。
- ・さいたま市総合振興計画において、4つの「副都心」の1つに位置付けられています。

みそのウイングシティ関連簡易年表

